

地域における介護福祉実践

「認知症の人のための仕事場や居場所と
多世代の交流の場づくり」



切り絵 栖村たか子

王滝村社会福祉協議会訪問介護ステーション
サ責・管理者 北村加保里

背景

- 王滝村は過疎化が進む山間地。
- 人口は約700人。
- 林業の盛んな寒冷地の厳しい自然によって、忍耐強さや自立心が培われてきた。
- 生活が困難になっても、福祉や介護サービスに対する抵抗が根強い。

高齢者や障害者のための民間サービスは殆ど無い。

村役場と社会福祉協議会が福祉サービスを担っている。

公的サービスでは支えきれない村民や地域のニーズを探り、地域の人々の協力を得て、今ある地域の資源を活用し、村民や地域のニーズに応える方法を考えたい。

目的

- 動ける認知症の方はADLが高く、介護度が低い方が多い。デイサービスなどでじっと座っていることが苦痛になることもある。
- この地域では、近くの方が認知症の方の面倒を見たり、遠方の子どもの家に「危ないから早く連れて行った方がいい」と連絡する等、地元の人々の関係性は強い。
- 商店や食堂などの社会資源は少なく、元々お互いの家を訪れてお茶を飲む習慣があるので、認知症の方が、親切に接してくれる人の家に頻回に出掛けることも少なくない。





- 親族が認知症の方の行動を制限したり、施設入所を急ぐ例もみられる。周りの人々に負担や迷惑をかけるという思い込みがあると思われる。
- 長寿社会となり、認知症状を持つ方が増加している。
- 社会生活が難しいと思われる方も、出来ることを見つけ、役割を持つことで、自分らしさを取り戻すことができる可能性が高くなる。
- 認知症の方への支援は、家族だけでは難しい。
- 地域の中で支え合うことが不可欠で、この仕組みを構築するのが介護福祉士等、福祉の専門家の役割である。



今回の取組は、住み慣れた場所で生活を続けるために、役割をもって生きがいになる手仕事、木工作业、農作業などを行なえる居場所、好む仕事を活かして多世代とつながる場を作ることを目的に、どのような取組をしたのかを発表したい。

方法

要援護台帳の約100人のうち答えることができる半数の方を、
①身体が不自由な方、
②独居の高齢者、
③認知症のある方
の3グループに分けて、ヒアリング調査を行った。

調査 1

質問 7項目

- 仕事をしてみたい？
- 人の手伝いは？
- 役に立つことは？
- 収入になった方がいい？
- 自分のできること、好きなことは？
- 誰かと一緒にする方がいい？
- どこでする？

この内容を会話の中から、無理なく答えられるように配慮した。

①身体に 不自由な所のある 人の意見

時間はいっぱいある。パソコンはやれる。仕事があるかなあ。

60代身体障害男性

足が痛いし、すぐ忘れちゃってダメよ。作ることは好きだから、みんなでやればおもしろいじゃん。80代女性

仕事っていえば、どうかな。僕にやれる包丁研ぎとか差し入れとか。年寄は当てにされるのが嬉しいと思う。80代男性

立ってられないし、左手もしっかり動かないけど、何かしてきたい。寝てろって言われてもいやだよ。80代女性

あちこち手術してから、座ってても、腰が痛くなってくる。何かしてたら忘れてるから、何かしてもいいよ。80代女性

座ってやることあれば、手も使えるから、テレビ見るよりいいよ。この年になればお金は欲しくないよ。90代女性

野菜ボランティアをずっとやってきた。人が喜ぶことやりたいよ。90代女性

何かおかず作ってリュックに入れて、友達の家に行きたくて行くのが楽しみ。そんな仕事あればいいなあ。80代女性

②独居の高齢者の意見

忙しくしてるのがいい。独りではつまらなくなるから、人の畑のこと手伝うのがいいかな。80代女性

朝、新聞見たら、やること無くなって横になる。冬は畑もないから、手仕事したいよ。90代女性

毎日やることある方がいい。考え出したら、ろくなことは思わん。もらってくれる人があると、畑もつくりがいがあ。80代男性

縫物が好きだから、なんでも縫ってやるよ。布もいっぱいある。娘が送ってくるわ。90代女性

やるのが雑になってダメだけど、何か手伝おうか？張り合いがあるといいな。90代女性

仕事はさんざんやってきたから、いやだけど、誰かに食べさせたり、漬け物をあげたりして、楽しんでもよ。90代女性

娘は、ボケてしまうから、何かやれ、ってうるさい。何か手伝えるかな。80代女性

ボケ防止に、編み物をやっている。迷惑かけないし、人に上げて楽しんでも。仕事になっちゃうとつまらん。90代男性

昔は手間借りって言って、田植えも稲刈りもみんなでやった。粉ひき、えごますりも、みんなでやれば苦にならないわ。80代女性

遊びながらやれるのがいい。自由に。70代

今でも頼まれごとはある。忙しい方が楽しい。80代女性

③認知機能に障害のある人の意見

手伝うことがあれば、やるよ。畑も好きだったけど、できんようになって置いた。**90代女性**

頼まれればいくらでもやるよ。できんことはダメだが、家でぼーとしてるよりいいよ。**80代男性**

何でも教えてもらえば、手伝うよ。楽しそうだね。**70代女性**

何やる？やること言ってくれ。道具もあるぞ。**70代男性**

畑のことならやるよ。昔は年寄もやることいっぱいあった。えごま乾かして、叩いて、ごみ取ってたよな。**80代女性**

独りで、ボーとしていると頭がおかしくなる。何かしてる方がいい。何でもするよ。**80代女性**

僕にできることありますか？役に立てるなら、やります。**90代男性**

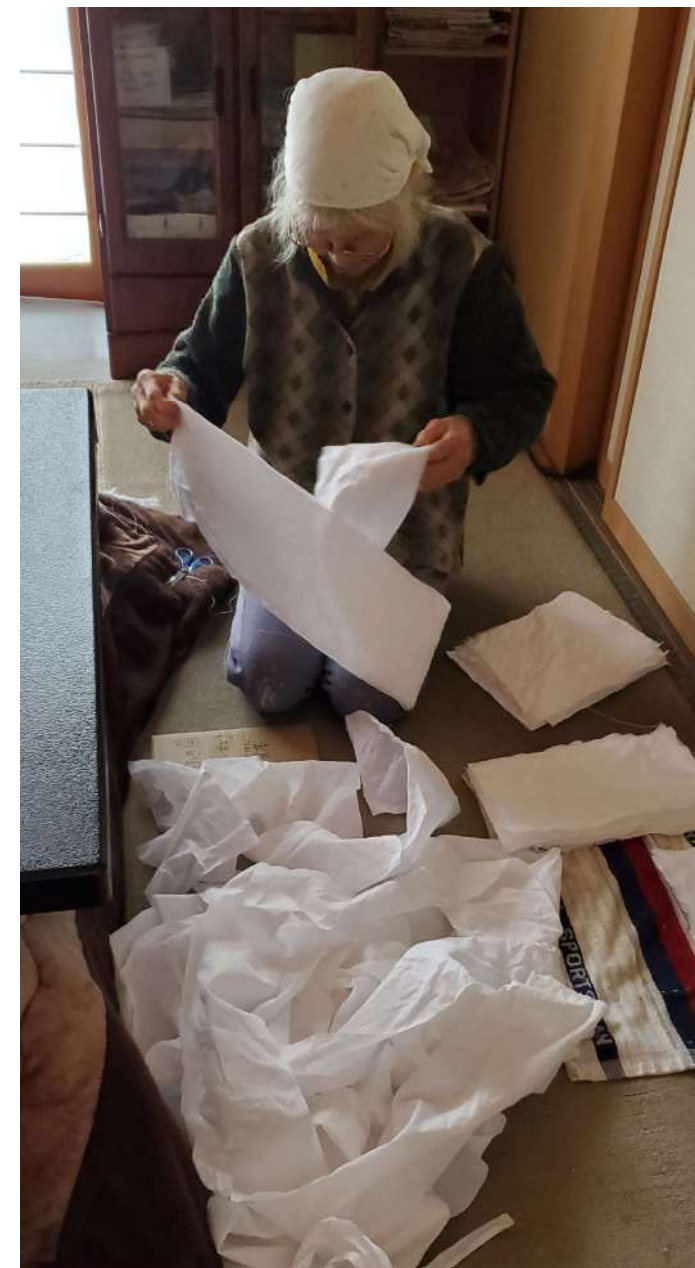
一緒にやると、大変なことでも楽しそうだね。**60代女性**

できることあるかなー。旅館に勤めたから、掃除とか茶碗洗いとか好きだよ。**80代女性**



結果

要援護者104人中
50人の聴き取りを
記録した結果、得
意なことや手伝え
ることをしたいと
いう意見が9割以
上の方にあったこ
とがわかった。







調査 2

①実際に村内で地域活動をしている場所を訪ねて、今後の村民とのつながり等の要望について聴き取りをした。

②現在、古民家で、月1回、声掛けで集まりを活動している五郎八茶屋の参加者に、今後の活動計画や希望を聴き取り、認知症の方が参加することへの意見交換を行った。後日、言いにくい意見があったことを予測して、個別にヒアリングも行った。

①村内で空き家を活用して地域おこしの活動をしている方4人に、それぞれの活動の様子を聴いた。

- 村民のための美術広場を空き家に開設した。
- 倉庫の古書を本の展示小屋に改装した。
- 村民と触れ合う場に出向いて、高齢者と話がしたい。
- 昔の生活の知恵や方法を教えてもらいたい。

という要望や交流を望む意見があった。



空き家の民宿を
村民の美術広場に改造中



農機具の倉庫を改装し、古書を展示



王滝村 地域おこし協力隊



活動報告会

⇒スケジュール⇒

日時

令和5年3月10日(金) 18時～

会場

公民館 洋室

ここまでどんな活動をし、何を感じたのか、
そしてこれから何をしていくのか
各隊員様々な方法で報告します。
皆さんぜひ、お気軽にお越しください。

問い合わせ先

王滝村役場 企画観光推進室

※裏面もご覧ください

推し村プロジェクト × 流れて繋がったり
(長野県立大学) めてタイワ



3/18夜
19日

干物焼いたら、めでたいね
農家民宿と大衆酒Bar常八にて

春のはじまる予感～Foods & Gameのワンナイトイベント。県立大学2期生参戦。
2日目はまったり喫茶。(雨天決行・申し込み不要)

場所：農家民宿&大衆酒Bar 常八

3月18日(土曜日)

18:00～20:00 南知多の干物を七輪で焼いて食べます。
20:00～22:00 室内では麻雀や人生ゲームをやります
(初心者の方も大歓迎)

19日(日曜日)

11:00～14:30 常八にて喫茶をやります。

参加料 大人1,500円 子ども1,000円

(食べ放題・飲み物は別途)
※持ち込みOK! 差し入れ大歓迎!

長野県 地域発元気づくり支援金補助事業

連絡先：地域おこし協力隊・近藤太郎 Tel.080-8765-2669

村民を巻き込んだ
地域おこし協力隊の活動

令和5年度長野県元気づくり支援金事業

長野県立大学×王滝村

空き家DIYイベント



日時 2023.6.10(土) 10:00~
6.11(日)

場所 長野県王滝村 旧民宿かの

イベント中の二日間長野県立大生が王滝村に滞在し、空き家DIYイベントを行います。見学自由ですので興味のある方はぜひ見に来てくださると幸いです！

見学自由

お問い合わせ
王滝村役場 企画係 ☎ 48-2001



まほろば珈琲



梅雨の季節がやってまいりましたがお元気でお過ごしでしょうか？どんよりとした天気が続くと気分が落ち込みます。シトシト降る雨の中でいただく珈琲もまた最高ですよ！それにあった珈琲が梅雨を上手に乗り切る助けになるそうです。梅雨の季節も是非お越しください！

場所：王滝小学校コミュニティールーム
とき：6月:1日・8日・15日・22日
29日 (毎週木曜9時~16時)

お問い合わせ (地域おこし協力隊:高橋)
TEL:090-6589-7171
MAIL:cur8181@icloud.com

【まほろば珈琲】
珈琲をきっかけに皆さんがコミュニティールームを気軽に利用できるよう、より良いコミュニケーションの場所となれば幸いです。



②五郎八茶屋での話し合い

- 昼食や茶菓子をもち寄って、好きな手芸品を作って、今は福祉に寄付したいが、いつまでやれるかはわからない。
- 顔見知りの村民なので誰が来ても賑やかでいいが、介護の人がついてほしい。
- 自分たちも認知症になれば見てほしい。
- 達者な人が、遠慮するのもつまらない。
- やってみて、考えてくれたらいい、やってみないとわからない。
- 家族もついて来れるといいかな。
- **五郎八茶屋を一緒に居場所にできるか、別の日に設定するかは、少人数から試しながら、皆さんの意見で判断することにした。**

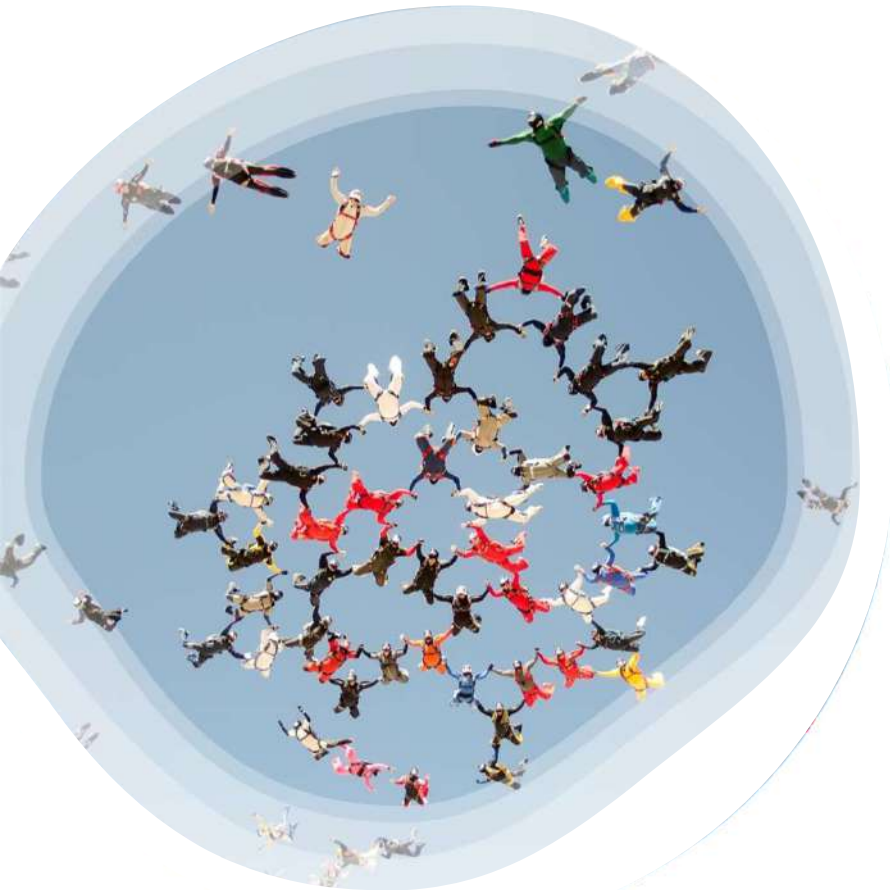


考察 1

ヒアリング（聞き取り）調査から、要援護者はなんらかの活動をしたいという要望が多かったので、活動の場所を確保する必要があることが確認された。

要援護者の活動への意欲をベースに、まだ持っている能力を発揮し、自分の役割を持ち、同じ村民同士の繋がりを確認できる自宅以外の居場所をつくる手助けをしていくことが必要だと考えられる。

また、村民と繋がる場に関わり、自宅でもできる仕事なども提案していく必要があると考えられる。



考察 2

要援護者の居場所と五郎八茶屋での既存の活動をマッチングすることについては、試行しながら、現段階ではその**善し悪しが測れなかった**。

五郎八茶屋の活動は、自主的な声掛けによって広がっている。そこに、要援護者を参加させるためには、「顔なじみという関係」を強みにしつつ、既存の活動主体と要援護者との関係を仲介する**専門職の関り**が必要であることが確認された。

また、村内には、地域活動を自由に行っている村内外の人たちが増えていることを、よく知らないでいることに改めて気付いたので、季節のおやつ作りを若い人や子どもと過ごす**イベントを五郎八茶屋の協力メンバーと企画**し、実施していくことを相談している。参加費や維持費についても相談も進めている状況である。





- 注意点として、私自身が公的なサービスを現役で提供している立場なので、一部の村民に協力すると思われることは、誤解を招く恐れがある。
- 今回のことは、慎重に進めるつもりだが、自分自身も村民であることを前提に、休みを利用して、ボランティアとして、村民や地域のニーズに敏感に反応していきたいと考えている。



まとめ

自分は社会福祉協議会で地域の福祉を増進する仕事をしていると考えてきた。認定介護福祉士研修を修了し、介護の世界、介護を必要とする人を中心に地域を見ているだけであったことを痛感した。介護福祉をベースにさまざまな資源とどのようにつながるのかという、地域の連携、地域の人と人との関わりという視点に欠けていたように感じている。

長野県立大学の学生が村の「推し活プロジェクト」の活動報告において、行政が村民より活動に対して冷たかった、と感想を述べていた。自分も、多忙を理由に、村の細かな情報に関心が向かなかったことも、反省せざるを得ない。

今回の実践を通して、地域支え合い会議に出席しているメンバーが、縦割りの体質にやる気を無くしていたかもしれないと想像できるようになった。村民である自分たちの現在の課題として、真摯に地域を捉え、地域の強み、弱みを見極め、何が出来るのかを、村民と一緒に考えていくことが初めの一歩となるのではないのかと考えている。

謝辞

今回の発表にあたり、ご指導、ご助言をいただきました本名靖先生、調査の協力をお願いした村民の皆様、写真の使用を許可頂いたご家族の皆様に、感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。